



## 民主主義への道 17

理事長 千葉忠夫

### ・戻った生徒を怒りを抑えてほめる

午後 1 時半ごろ、私たちのテントヘドヤドヤと崩れ込んできた若者たちがいた。この若者たちは私がその時点で誰よりもこの地球上で会いたいと思っていた若者たちだった。顔をみたら張り倒してやりたいと思うほど待ちこがれていた連中だ。

4 人は開口一番、「すみませんでした！ 今度から気を付けますから。」

張り倒したい気持ちでいた私は何とか激怒する感情を抑えた。

「よ〜くあのパリのど真ん中から帰ってきたねエ〜、あなたたちは偉いよ！」

「えっ？叱らないんですか？」

と気の抜けた顔。本当は彼らを張り倒してやりたいくらいだったが、

「どうして叱らなきゃいけないの？こんなに大変なことをやり遂げたあなたたちを？」

「……??？」

よくぞパリのど真ん中から郊外のキャンプ場まで帰ってきたものだと彼らをほめているうちに、次第に心から彼らを愛おしく思った。張り倒したいなどという気持ちはすでにどこかへ消し飛んでしまっていた。

「一体どうしたの？」

「迷子になってしまったのでパリの三越にいれば見つけてくれると思いましたが、閉店時間になっても誰も来ませんでした。だから店の人に頼んでタクシーで帰ってきました。」

「えらい！！ さあ一疲れただろうから今日はもう寝なさい。」

「ハイ！！ 今度からは気を付けますから、本当にすみませんでした。」

と素直な言葉が彼らの口から出た。態度も立派だ。何か彼らの中で変わり始めている手応えを私は感じたのだ。

「これからはイタリアのローマなどさらに大都市を回るから約束を守るように気をつけないといけないよ。」

### ・大人たちが作った青少年犯罪

生徒たちは心を開いてきた。もし私があの時、

夜遅く帰ってきた 4 人の生徒を怒鳴りつけていたら、必死になってキャンプ場まで帰ってきた彼らの努力は私という大人に無視され、彼らの心はより閉ざされたことだろう。

非行少年だの落ちこぼれだのと大人は彼らをお呼びけれど、彼らは決して好きでそうなったわけではなく、彼らが成長していく過程で彼らを取り巻く環境、すなわち大人が彼らをそうさせたと知るべきである。

生まれたばかりの赤子をみたことのある人は同意すると思う。あの無垢の赤子がなぜ悪いことをする人間になるのかと。最近日本で青少年の異常な犯罪が増えていると大人たちは嘆いているが、彼らを製造しているのは我々大人たちであると知るべきである。子供たちはみな社会悪に染まる前は無垢であることを知るべきである。彼らは本当に純真で、素直な若者たちだ。植物だってしかるべき土壌と光と水を得ればまっすぐに育つじゃないですか。人間だってひねくれないように育てるにはそれなりの要素が必要なのである。

パリでの出来事以来、トラブルスクールはトラブルが少なくなり、私も再び自己満足に浸っていた。しかし問題は意外なところから起こることを思い知らされた。

### ・一行、汽車乗り間違え大混乱

パリに一週間滞在後、南仏のマルセイユに向かうのだが、生徒たちに当時世界最速の TGV に乗せたいと思い、パリとリヨン間の切符を購入し、乗ることにした。穂積さんと佐々木さんはキャンプ道具を積んだバスで走り、私は生徒たちを連れて TGV にパリのリヨン駅から乗ることにし、穂積さんたちとはリヨンにある本物のリヨン駅で落ち合うことにした。

時速 300 キロ以上の TGV は新幹線より速く、あれよあれよという間に、午後 2 時に止まるはずのリヨン駅を通過してしまつたらしい。車掌にリヨン駅はと聞くとノンストップだそうだ。フランスで 2 番目に大きい都市を止まらずに行くなんて！ 大変だ、穂積さんたちとリヨンで 2 時に合流できなくなってしまった。

車掌に電話は？ と聞くと車内電話は無いそうだ。エエ〜新幹線にはあるのに〜！ どうしよう？ 時速 300 キロ以上の TGV と時速 80 キロのバスとの距離は開くばかりだった。とうとうマルセイユまで行ってしまった。フランスでは当時から“のぞみ”型

TGVがあったんだとは知らなかったのは後の祭。

その日宿泊する予定のキャンプ地は地中海沿岸でマルセイユからさらに50キロ北に位置していた。私は困った。キャンプ道具一式を積んだバスはのろのろとリヨン辺りをうろついているだろう。リヨン駅にメッセージを入れてもらったのがなしのつぶてだ。現在のように携帯電話があれば



マルセイユ市・サン＝シャルル駅に停車するTGV

ばどんなに便利だろう。

### ・空室なく 宿泊は女生徒のみ

生徒たちはぶつぶつ不平を言い始めた。私は、出来るだけその日宿泊予定のキャンプ場近くまで移動することが最良策と判断した。

列車を乗り換え地中海沿岸の町までたどり着き、キャンプ場に電話をして迎えに来て欲しいと頼んだ。キャンプ場にはバスがないからできないと断られた。幸いにも佐々木さんがリヨン駅からキャンプ場に電話を入れていたので佐々木さんと穂積さんが泊まるホテルの電話番号を知ることが出来た。翌日会う場所を佐々木さんに連絡後、私たちはホテルを探したがバカンス最盛期のため三室しか取れなかった。女生徒のみを泊め、男子は海岸で野宿すると告げた。たぶん文句が出ると思ったら、「ああ、いいよ。俺たちそういうの慣れているので」と心強い答えが返ってきた。みんなさっさと散らばり段ボールの空箱や新聞紙を集めてきた。砂浜が切れて街並みに接するところに防波堤が延々と続いていた。その防波堤の下で野宿。日中はものすごく暑かったのに夜半は冷え込み、むしろ寒かった。睡魔が襲い、ウトウトしていると海岸警備の人が連れている犬には舐められるし、かと思うと同類の無宿者が近寄ってきてなにやらフランス語で話しかけてくるやで、まんじりともしない夜を過ごした。

夜が明けると直ぐ女性たちが泊まっているホテルのレストランに駆け込み朝食を注文した。ホテルに泊まった生徒も全員揃ったところで、

「男子生徒は偉い、女子だけがホテルに泊まることに誰一人文句を言わず野宿した。」「寒かったすよ。」「犬も怖かったけど、変なやつに話しかけられて困ったス。」「今日佐々木さんたちに会えるっすか?」と心配顔。「大丈夫、昨日連絡がついて

いるから。」「アメリカとソ連の人工衛星があの広い宇宙の中でドッキングしているんだ。ここは地球の上のたかがフランスだよ」それでも生徒たちは不安顔を隠せない。

午前中はぎらぎらと輝く地中海で海水浴。水着を持っていない者は海岸散歩。朝と同じレストランで昼食をとった。約束の時間、午後一時近くになるとみんなの顔は外に向きだした。

デンマークから乗ってきたバスが見えたとき生徒たちは「おっウ！」声をあげ大喜びだ。私も少なからず安心した。



マルセイユ旧港近くのカタランビーチ

### ・今夜はM子がない

みんなでワイワイ、ガヤガヤ、バスに乗り込みキャンプ場へ到着。テントを張り、夕食後は地元の若者たちがしていたバレーボールに参加。国際試合となるとたんに双方ともチームワークを強くした。テントに戻り、そろそろ休もうと思っているところに生徒がきて

「M子がいません。」「エッ、よく探してみたの?」「はい、どこにもいません。」

一難去ってまた一難。M子を探すため全員で広いキャンプ場を見回るも成果なし。私は夜の十二時まで待つことにした。それでもM子が戻らないときには警察に電話をしようと思った。私と同じテントの穂積さんの顔には参った表情がうかがわれる。十二時、M子は戻らなかった。キャンプ場の事務室で電話を借りて警察に電話をした。

「日本から少年少女を連れてきている者ですが。」「ウィ、ムシュウ、女の子だろ? ここにいるよ。」「あっ、そうですか、今から連れに行きますから、」「ノン、ムシュウ、今日は遅いから明日の朝でいいよ。」「はい、あのメルシィ、ボオクウ。」

ほっとして昨夜の野宿の疲れも重なり私はテントに戻ると直ぐ寝てしまった。穂積さんは心配で眠れなかったそう。翌朝キャンプ場から数キロメートル離れた警察におずおずと出頭。M子の顔を見ると無くした財布を見つけたときの何倍かのうれしさが身体に響きわたった感じだった。

この手記は月刊「権利闘争」(権利問題研究会発行)にて連載されたものです。転載の許可をいただきました関係者の方々に感謝いたします。

在デンマーク日本大使館のフェイスブックの記事から転載

「デンマークと私」の第2回目は、北フン国民高等学校の創設者であり、長年にわたって日・デンマークにおける社会福祉の発展と両国の交流の促進に多大な貢献をされている千葉忠夫様に執筆をお願いしました。お忙しい中、本稿の執筆を快諾いただき、心から感謝申し上げます。

## 小さな国、大きな心

日本国から出国を証する。  
出国年月日 APR. 14. 1967  
出国港 YOKOHAMA

生まれて初めて手にしたパスポートの一頁に横細長いスタンプが刻印されている。以前、夜学生時代、一生を貫く仕事として自分は祖国日本のために何を為すべきかと考えたことがあった。人々が自由に生活しやすい国に日本をしたいと思いつき、この地球上に理想の国はないものかと模索した。

住みよい国は社会福祉国家であり、その福祉国家は北欧にあると知るに及びデンマークを目指したのである。明治生まれの両親は誰一人知人もいない国へ片道切符で行っては生きて帰れぬだろうと大反対した。ドアは叩けば開かれる、善意は通じる。と両親を説得し故郷を後にした。1967年4月29日昭和天皇誕生日に、前夜ストックホルムを発った列車は朝日に眩いクロンボグ城を視界に入れたフェリー内であった。列車は緑の畑、赤いレンガの家々、チューリップの咲き乱れを左右に見ながらお伽の国の首都コペンハーゲンに到着した。

デンマークでの第一歩は食べ物を探すこと、寝る処を確保することであった。犬も歩けば棒に当たる。数日後になんとか養豚農家の屋根裏に背負ってきたリュックをおろすことが出来た。社会福祉国家デンマークは如何にして出来たか、丸々と太った満足気な豚共に聞いても答えは得られず豚走？したかった農家での一年余りの日々が私を以後の長い歳月デンマークにおき留めた。



私は日本に住みよい国にしたい。その答えをデンマークから得たいがために来ているのだと何度となく自分に言い聞かせてきた。現在のデンマークを築いた人物が1800年代の中頃にいたように思える。個々人の大切さを説いた人。社会の良し悪し有体を

童話で国民に語りかけた人。真の国作りは啓発教

育であると訴えた人。同じ頃日本では幕末、明治維新を生み出す坂本龍馬などの志士が新しい国、日本を創ろうと奔走していた。

デンマークが人々の住みよい国、社会福祉国家を築いた足取りを辿ると1800年代に遡るようだ。1800年代で特筆すべきことは初頭に世界で一番先に教育の義務制度を実施。中頃の前述三著名人の存在。国王が自由憲法を制定。国民を啓発啓蒙する全寮制の学校フォルケホイスコーレが発足。後半には農業協同組合の設立。続いて1900年代に入ると農業労働人口が都市に移行し産業別労働組合を結成。デンマーク人は社会福祉の基盤となる民主主義（自由、平等、博愛）を文字から学ぶよりも自ら実践して連帯共存する社会を築いて行ったのである。

教育の義務に目を向けると、人よりも人よりももの競争原理の教育はせず、人とともに共生連帯し、かつ責任を持たせる国民教育なのである。進学率をよくするよりも落ちこぼれ、いじめを出さないようにする、社会の中で弱い立場にある人々を助ける人を育てるのがデンマークの優秀な教師である。

毎年1月末に国を挙げてのチャリティーショーが一週間行われるが、人口わずか500数十万の小国ながら10数億円のお金を集めて自国以外の世界中の不幸な女性、ホームレスの子供たちなどを支援する大きな心の持ち主がデンマーク人である。



デンマークの政治家は、国民の生活を守るのが政治家の政治生命と心得ている。参政権は18歳以上の者にあり当然選挙権と被選挙権は平等に18歳からであるので最年少の議員は18歳である。

国民の生活を守るのが国会議員の政治生命である。第一次世界恐慌時にはデンマークも失業者を多出し経済は悪化したが、こういう苦しい生活は二度と国民にさせたくないという諸々の社会福祉法を制度化した。第二次世界大戦でナチスに占領され、自由を奪われたデンマークはこの戦争が終わったら社会福祉国家を創ろうと、政治家は絶えず国民が困っているときに国難から脱出するように努力してきた。デンマークに初期の社会福祉国家が出来上がったのは、1960年代中頃で私がそれを学びに来た頃と一致する。

2020年コロナCOVID-19がデンマークを襲った。

当初は楽観視していた向きもあったが、南欧諸国の実情を察知するや国難に対処する伝統的な政治家の姿勢を歴史からではなく、今回は私自身がその政治政策の中に身を置いて体験した。首相は諸野党とも都度協議検討し合意のもとに段階的に緊急事態政策を緩和している。デンマーク国民は自国政治家を信用している。私は成熟した民主主義の国、社会福祉国家に納得している自分に気が付いた。



日本は、未曾有のコロナ感染のため被った生活苦から脱するにあたり社会の変革を必要としている。社会の変革には第一に日本国民の民意、民度の涵養が求められる。人の幸せは国の大小、歴史や文化の違いによるものではない。世界一幸せな国、ここ数年絶えず世界の上位の座にいるのは博愛（共生、連帯）という大きな心を携え高福祉高税の制度を維持している小さな国、生活大国デンマークである。大きな国、経済大国の日本人が小さな国、生活大国のデンマーク人の大きな心に学べば日本は世界一幸せな国、社会福祉国家を築くことが出来る。



(写真: 駐日デンマーク大使館 Facebook)

## 2020年度総会 は 書面総会 に 変更

5月23日に予定していた2020年度総会は、新型コロナウイルスCOVID-19のため緊急事態宣言が発令されたこともあり、理事・監事を除く出席回答者が4名に留まりました。外出・イベントの自粛要請もあり、予定通りの開催は不可能と判断、書面総会に変更しました。

同封の資料をご覧ください。正会員は回答用紙にご記入の上、返信用封筒にて返信をお願いします。財政逼迫のりから賛助会員の方には返信用封筒を同封しませんが、ご意見等は遠慮なく事務局長までお寄せください。メールアドレスは

[masashimaeda@hotmail.com](mailto:masashimaeda@hotmail.com) です。

なお、書面総会の結果は次の会報またはハガキで報告しますが、会議資料を改めて同封することはありませんので、今回の資料を保存していただくようにお願いします。

**2021年度総会予定は** 暫定的なものですが、例年5月の最終土曜日の前の土曜日に開催していますので、2021年5月22日（土曜日）になります。

言うまでもなく新型コロナウイルス感染症が未だ収束せず出席者の安全が懸念される場合には延期・変更を考える必要があります。

**第11回研修塾は** 2020年度総会資料の「2020年度事業計画（案）」にあるように、新型コロナウイルス感染症を巡る社会情勢から、今年度は開催できる状態ではないと早期（3月中）に判断しました。

可能であれば次年度（2021年秋）には開催したいものと考え、お世話いただける方を探しています。ご協力いただける方は、千葉理事長か前田事務局長、茂木あるいは理事の誰かにお知らせください。

**会費納入のお願い** 今年度総会には会費年額の変更を提案していませんので、昨年同様

個人会員5000円、法人会員10000円の会費の納入をお願いします。（4月に昨年度の会費と併せて今年度の会費もお納めいただいた方にも、作業軽減のため振込用紙を同封しました。）

**編集後記** ★球磨川流域を始め各地で発生した水害被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。★毎年毎年かつてない降水量を更新する日本にCOVID-19の脅威まで加わった今年。★感染拡大の中、熊本ではボランティアを県民に限定した。★その後益々感染拡大が続く状況下多くの懸念を振り切って始まるGoToキャンペーン。財源となる税金を一番納めている都民は対象外に。★前宣伝に誘われ予約した都民の解約料自己負担は批判の大きさに方針変更。★この件も検察官の定年延長断念も世論が権力を動かしたことに一筋の光。（茂木）

### 発行所

〒292-0801

千葉県木更津市請西4-6-9

Tel & FAX : 0438-36-3565

お問合せ Tel : 090-9827-9262

茂木（もてき）俊郎

NPO法人ホームページ

<http://www.djsli.com>

メールマガジンの申し込みはホームページからお願いします。